

病害虫発生予察情報

病害虫発生予察情報（飛驒地域） 6月予報

モモせん孔細菌病、果樹カメムシ類、アブラムシ類及びタネバエの多発が懸念されます。

【 果樹 】

せん孔細菌病

春型枝病斑が多くのは場で多くなっており、罹病枝を残したままで風雨が続くと感染が拡大する恐れがあります。周辺への伝搬を防止するため、罹病枝とその周辺の新梢葉など、伝染源となる部位は、見つけ次第除去し「ほ場外への持ち出し処分」を徹底してください。また、多発ほ場では果実への感染防止を図るため、摘果を丁寧に行い、早めに袋かけを行いましょう。

果樹カメムシ類（主にチャバネアオカメムシ）* 病害虫発生予察注意報第1号（R2.5.27付）発表

管内に設置した予察灯の累計誘殺数は5月第5半旬まで、9頭（平年4.4頭）、フェロモントラップの累計誘殺数は19.7頭（平年12.7頭）と多く推移しており、今後気温の上昇とともに活動が活発になり、果樹園への飛来数の増加が懸念されます。被害の発生には地域差や園地差があるので、園内へ飛来が続くようであるなら、防除を実施してください。

【 野菜類 】

アブラムシ類

管内4か所に設置した黄色水盤トラップのアブラムシ類累計誘殺頭数は、5月第5半旬まで、126.1頭（平年57.0頭）と多く推移しています。ほ場内をよく観察し、発生が認められた場合は速やかに防除を実施してください。

タネバエ

管内2か所に設置したトラップのタネバエ累計誘殺頭数は5月第5半旬までで、132.2頭（平年18.3頭）と多く推移しています。誘引源となる有機質肥料や未熟堆肥の施用は避けましょう。また、入り口に1mm目の防虫ネットを設置する等、ほ場に侵入させない対応を実施してください。

○主な病害虫の発生状況及び今後の予測（6月）

	病害虫名 (防除適期)	生育状況 発生量	発生時期及び防除適期						防除上の注意事項
			1半旬	2半旬	3半旬	4半旬	5半旬	6半旬	
水 稲	生育(高山市)	並							
	葉いもち	少						<初発生>	葉いもち
	イネミズゾウムシ	少	<幼虫孵化最盛期>						補植苗は発生源になるので早めに除去する。
	イネドロオイムシ	少	<幼虫発生期>						イネミズゾウムシ
	防除適期		▲←		▲← 葉いもち(初発前)			→▲	箱施薬を実施していないほ場や、多発時には本田防除を実施する(防除の目安: 夕方の100株当たり寄生数が30頭以上)。
			▲←		イネミズゾウムシ(多発時)			→▲	
			▲←		イネドロオイムシ(多発時)			→▲	イネドロオイムシ
									箱施薬を実施していないほ場や、多発時には本田散布を実施する。
ホウレンソウ	べと病	並	<発病適期>						べと病
	防除適期		▲←		べと病(感受性品種、防除)			→▲	発病に好適な時期になるため、感受性品種では薬剤による防除を必ず行う。
トマト	灰色かび病	並						<初発生>	灰色かび病
	葉かび病	並						<初発生>	花がらや葉先枯れは早期に除去する。
	防除適期		▲←		灰色かび病(予防的防除)			→▲	葉かび病
			▲←		葉かび病(予防的防除)			→▲	発病前から予防的な防除を行う。
野菜全般	コナガ	少							コナガ
	アブラムシ類	やや多							薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一系統薬剤の連用は避ける。
	防除適期		▲←		コナガ(ローテーション防除)			→▲	
			▲←		アブラムシ類(防除)			→▲	アブラムシ類
									定植時に粒剤施用する。高温乾燥が続くと多発する。防虫ネット・シルバーマルチで飛来を抑制する。

	病害虫名 (防除適期)	生育状況 発生量	発生時期及び防除適期						防除上の注意事項
			1半旬	2半旬	3半旬	4半旬	5半旬	6半旬	
果	生育(高山市)	並							シンクイムシ類 新梢伸長期の防除を重点的に実施する。 カメムシ類 飛来状況に注意し、適期防除に努める。
	シンクイムシ類	やや多						<第1世代成虫最盛期>	
	カメムシ類	多	<越冬世代成虫>						
	せん孔細菌病(もも)	やや多						<感染拡大期>	せん孔細菌病 罹病部位は見つけたら切除する。また、 多発するほ場では早く袋かけを行う。
樹	防除適期		▲←					→▲	
			▲←					→▲	

注) ▲、▲←→▲: 防除適期

調査データ ほか

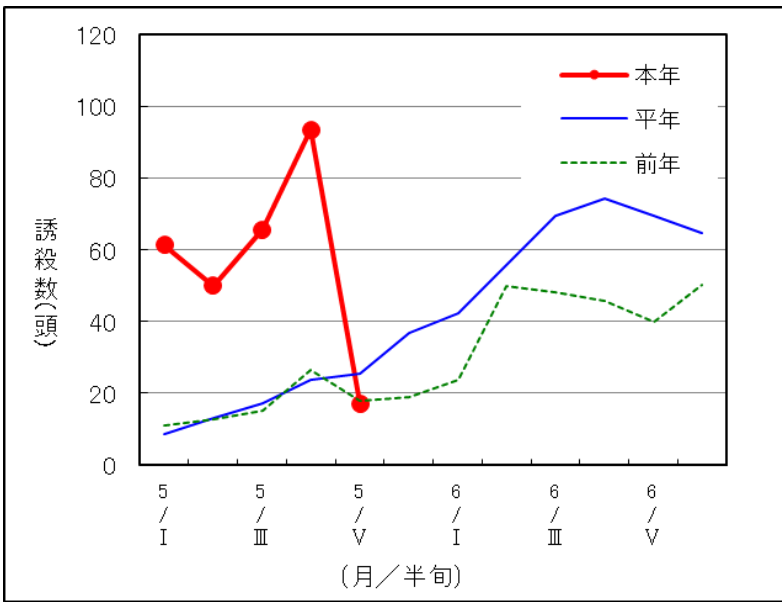


図1 アブラムシ類の黄色水盤誘殺頭数の推移 (下呂市御厩野)

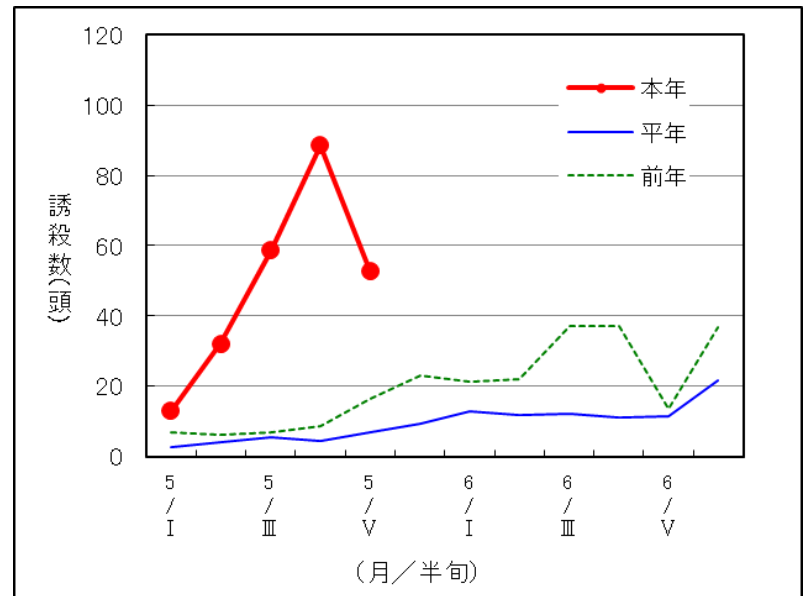


図2 タネバエの臭気トラップ誘殺頭数の推移 (高山市下林町)



図3 タネバエ幼虫による芯葉の加害 (ホウレンソウ)



図4 せん孔細菌病 (もも葉の初期病斑)

6~8月は 「農薬危害防止期間」 です。

農薬の適正な使用、保管管理に努め、農薬を散布する場合は、周辺に栽培されている作物のみでなく、住宅地等を含めて飛散がないよう、十分に配慮してください。

東海地方1か月予報 (名古屋地方気象台 5月21日発表)

向こう1か月の気温は平年より高く、湿った空気の影響を受けて日照時間は平年並~少ないと予想されます。期間の前半は、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

岐阜県病害虫防除所では、この他に病害虫の詳細な調査データをホームページにて公開しています。
<http://www.pref.gifu.lg.jp/sangyo/nogyo/gifu-clean/24321/>
飛騨支所 〒506-8688 高山市上岡本町 7-468 TEL (0577) 33-1111(内線 245) FAX (0577) 34-2706